

学部：理学部物理学科

学年：2 年

氏名：山下翔平

渡航先：スイス

渡航期間：平成 24 年 9 月 3 日～平成 24 年 9 月 17 日

タイトル：研修から学んだこと

留学状況

私は平成 24 年 9 月 3 日から 9 月 17 日まで 2 週間、CERN（欧州合同原子核研究機構）に滞在をしました。CERN の他に、国連ヨーロッパ本部、ILO（国際労働機関）事務所、美術歴史博物館などにも訪れました。これをきっかけに物理・社会・英語の面で今後につながる貴重な経験をすることができました。

CERN とはスイスのジュネーヴ郊外とフランスにまたがって建設された世界最大の素粒子物理学研究所です。ゆえにその周りはフランス語圏ではありますが、国際都市であるため英語も通じる。

また留学前に 1.実験の予習をする 2.チャンスがあれば自分から会話する という目標をつくりました。

物理について

CERN 内では山形大学が参加している COMPASS 実験の施設を中心に見て回りました。大型実験装置を目の前に現地の先生方から現在行なっている実験をわかりやすく教えていただきました。実験に関する物理の質問などもしていただきましたが、予習の甲斐があり答えることができました。しかし、なぜそうなるのか？と質問を繰り返されるうちにノックダウンしてしまいました。そこで私は、最先端の物理に魅せられるうちに肝心の基礎をおろそかにしていたことに気づきました。確かに最先端の研究は新発見が魅力的であり、一端に触れることによって目標点から物理の全体像を照らしてくれるには良いです。しかしそれらを理解し武器とするには基礎を培うことが大切です。2 年生では専門の授業が多く展開していく時期です。この経験を糧により一層日々の勉学に励みたいです。

社会について

国連ヨーロッパ本部や ILO(国際労働機関事務所)へも行きました。そこでは活躍されている日本人職員の方々といろいろなお話をすることができました。創立の歴史、貧困の背景、大統領選挙・・・私は中学高校の教科書程度の知識しかなく話についていくのにやっとでした。しかし実際に国を相手に仕事をする方々をみてあることに気づきました。世界で活躍するためには英語だけ出来れば良いものではありません。各国の政治や文化を理解するこ

とが、思いやりのあるコミュニケーションのために必要であるということです。

英語について

リスニング力の不足と表現力の乏しさを痛感しました。

飛行機のアナウンスや博物館の説明など、ノンネイティブな人もいることを想定した英語は十分に理解することができました。しかし、英語での日常会話には苦戦しました。簡単な会話のはずなのに話がかみ合わないことがよくあったのです。また相手が疑問文なのか肯定文なのか判断に時間をかけてしまいました。ですが慣れてくると彼らは最低限の単語、イントネーション、強弱の合図で会話をしていることに気づきました。命令文や肯定文のはずが語尾を上げるだけで疑問文として扱われることも会話を通して理解したことです。その他にも実体験を通して学んだことは多々あります。生活するために何度もこのような状況を体験することは日本では難しいと思います。

ジュネーブへも何度か行きました。街の人とは初め緊張して会話をためらってしまいましたが、勇気を出して話しかけたことで素敵な出会いがありました。私が親しく話した人にスイス人の大学生ニコくんがいます。彼とは路上チェスで出会い、私がチェスをやろうと誘って親しくなりました。試合をするたびにコツや私の弱点を英語で教えてくれました。趣味の話もしました。それらを必死に聞き取ろうとしたのは生きた英語を聞くいい機会となりました。それに対して自分の考えを述べようとしたがいつも同じような文法や表現、単語の羅列となってしまう日常的に英語を話すレベルとの差を感じました。

今回の留学を経て自信を持つことも悔しく思うこともありました。目標は達成できたと思います。これからも自身のコミュニケーションの幅を広げるため、英語を勉強していきたいです。



にぎわう路上チェス



サン・ピエール大聖堂